

令和5年度 横浜市学力・学習状況調査の結果について

令和5年4月に、横浜市内の2年生から6年生を対象に行われた横浜市学力・学習状況調査について、本校では次のような結果となりました。

教科別学習状況調査結果

ほぼ全教科で市平均並み、もしくは横浜市の平均を上回る結果でした。

【国語】

(正答率 %)

	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
二谷小	60.9	68.5	63.3	67.0	67.6
横浜市平均	54.9	65.0	59.8	63.9	60.8

【社会】

	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
二谷小			77.6	69.9	76.8
横浜市平均			74.2	65.9	68.8

【算数】

	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
二谷小	70.0	71.5	75.5	78.3	70.3
横浜市平均	64.4	70.8	72.0	73.7	61.7

【理科】

	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
二谷小			74.6	67.2	63.0
横浜市平均			75.9	64.5	55.2

【外国語】

	6年生
二谷小	91.3
横浜市平均	87.0

【本校の傾向】

【国語】

○全学年、市平均を上回る。

4・5年生は文学的文章で作品や登場人物を把握する設問が苦手である。「叙述を基に」という、作品に書いてあることを手掛かりに、登場人物と自分を重ねて「自分なら」といった理解をするだけでなく、客観的な読解、把握をする学習を行っていく。

【社会】

○4年生以上全ての学年が市平均を上回る。

事象の起きた理由を考えたり、資料を基にして自分の考えを表現したりすることがやや苦手である傾向が見られる。今後は、自分の考えを文章にする時間を十分に確保し、根拠を示しながら話し合う学習を進めていく。

【算数】

○全学年、市平均を上回る。

学年によっては、図形(平面・空間)が苦手な傾向が見られる。今後も、具体物操作等の時間を十分に確保し、どの学年でも図形の特徴を捉える学習を重視していく。学年が上がるにつれて図形の構成要素を捉えたり、異なる複数の図形の構成要素を関連付けて捉えられたりする見方や考え方が身に付くようにしていく。

【理科】

○4年生は市平均を下回ったが、5年生、6年生では市平均を上回る。

各学年の強みは異なり、4年生は、観察・実験などの技能や比較の見方を用いること、5年生は、根拠のある予想や仮説を発想して表現することや結果を適切に記録する力、6年生は、実験結果から考察したり、考察したことを表現したりする力が付いている。今後も、各学年で身に付けたい理科的な見方や考え方をより意識した授業を進めていく。実験器具の名称や使い方においては、正しく知識が身に付くように改善を図っていく。

*理科支援員の配置(4~6年生)

【外国語】

○今年度より6年生のみ実施。市平均を上回る。

聞き取りにおいて、英単語を正確に捉えている。また、単語だけではなく、ゆっくりと話された英会話を聞き取りながら、十分に内容を捉えている。親しみにくい「大文字」を書くことにおいても市平均程度の正答率があり、「小文字」を書くことにおいては市平均を大きく上回った。聞くことを中心にした外国語学習を継続してきたことにより、ゆっくり話される基礎的な英会話ならば十分に聞き取れているので、話すことや書く力を伸ばすように学習を進めていく。

【今後に向けて】

全体的に、「知識・技能」の定着が見られた。日々の授業や継続して取り組んでいる基礎学習や自主学習、家庭学習などでの積み重ねが結果に表れていると思われる。今後も、「知識・技能」の確実な定着を図りつつ、さらに、「思考・判断・表現力」の力を高めていくことを意識した授業改善に取り組んでいく。一人一人に応じた学びを充実させるとともに、友達と学び合い、自分の考えを深めたり、広げたりする協働的な学びも大切にしていく。一人一人に育むべき資質・能力を意識した授業を進めていきたいと考える。